

平成30年度事務事業評価シート(29年度実績)

◎基本情報

事務事業名	人権文化祭開催事業		担当部署	健康福祉部 人権推進課 人権福祉センター	
総合計画体系			根拠法令 計画など	鳴門市人権条例・鳴門市隣保館 条例	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業 期間	開始	昭和 <input type="text" value="49"/> 年度
政策(中項目)	1	ひとにやさしく健康で安らげるまち なると			終期
(小項目)		人権			
施策	1	人権の尊重			
基本事業	1	人権行政の推進			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市民、行政機関、学校、企業、NPO法人、社会福祉法人、団体など														
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	保育所・幼稚園・小・中・高等学校・社会福祉法人・NPO法人・市民等及び行政による人権問題に関する作品の展示や人権劇・講演会などを通じて、市民等の人権問題の存在とその解消に向けた取組みや人権尊重の大切さを理解し行動していくことにより、同和問題をはじめ、あらゆる人権問題が解消されるとともに人権が尊重されるまちづくりに取り組む。														
事業計画	29年度に何を計画していたか	人権意識の普及・高揚を図る取り組みとして、第44回鳴門市人権文化祭を開催する。なお、前年度の同和カルタ大会が好評であったため小学生児童を対象に引き続き同和カルタ大会を開催する。 少子化に伴う展示作品数の減少が懸念されることから、社会福祉法人からの作品展示への参加について協力を継続要請するとともに、パワーポイントによる取組パネル作成と投影など負担軽減策を試行しながら、展示の維持と内容充実にも努める。 参加者数の増加につなげるため、昨年度から実施している人権文化祭前夜祭講演会を引き続き開催するとともに、人権文化祭の見学バス運行時間帯に合わせた体験型人権講座を開催するなど、開館時間や日程を延長だけでなく、新しい企画により、行政・学校・市民の来場者数の増加を図る。														
成果目標	事業目標の達成度合	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>31年度</th> <th>32年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人権文化祭来場者数</td> <td>9,500</td> <td>9,500</td> <td>9,500</td> <td>9,500</td> <td>9,500</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	単位	人権文化祭来場者数	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	人
指標名	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	単位										
人権文化祭来場者数	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	人										

◎実施結果(DO)

事業実施内容	29年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	平成28年度の人権文化祭での反省点や参加者の感想、アンケート結果などを踏まえ、次の取組を進めた。 ①NPO法人や社会福祉法人等からの作品展示の要請するとともに、人権文化祭期間中の開館時間を150分延長し、19:30までとした。 ②学校の取組を紹介する従来の紙ベースのパネル作成をパワーポイントで作成し、スライドショーでの展示を試行的に実施し、学校現場の作品作成の負担軽減を図った。 ③平成28年度に引き続き、部落解放同盟徳島県連書記長とDV被害者遺族を講師に招き、「DV被害女性を支えて」と題して、記念講演会とは別に前夜祭講演会を開催した。 ④人権文化祭見学バスの運行時間帯に合わせて、盲導犬ユーザーと盲導犬とのふれあいを通じた体験型の人権講座を実施した。 ⑤人権文化祭期間中に、第一中・第二中学生作成の人権劇や市内中学校生徒が作成した人権啓発スポット番組のDVDを定期的に上映した。 ⑥同和カルタ大会は、小学生児童及び児童クラブにも参加周知を図り、引き続き規模を拡大して実施した。						
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他							
指標名		28年度実績	29年度実績	30年度目標	31年度目標	32年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	人権文化祭展示作品数	1,939	1,832	2,200	2,200	2,200	件
	2	人権文化祭講演会来場者数	150	162	170	170	170	人
成果指標 対象にどのような効果があつたか示す指標	人権文化祭来場者数		8,610	7,660	—	—	—	人
	目標達成率(実績/目標)			80.6	—	—	—	%
今年度の進捗状況	ほぼ計画どおり	事業全体の進捗状況		計画どおり				

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成29年度	当初予算額	0	717	0	0	304	1,021
		補正予算額	0	0	0	0	0	0
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	717	0	0	304	1,021
		決算額	0	566	0	0	269	835
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(7,234千円/人)	臨時職員(2,492千円/人)	総人件費		総事業費		
	0.5	0.5	4,863		5,698			

【事務事業名:人権文化祭開催事業】

事業費推移	年度	28年度決算	29年度決算	30年度	31年度	32年度
	事業費	949	835	1,179	1,179	1,179
	うち一般財源	404	269	333	333	333
	人件費	7,133	4,863	4,863	4,863	4,863
	総事業費	8,082	5,698	6,042	6,042	6,042

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった	展示作品数や人権文化祭の来場者数はともに減少したが、活動指標の80%以上であったためB評価としたい。
	効率性	B:概ね効率的だった	開催時間の延長等業務量は増加したが、人員を効率的に配置し、対応した。
②成果に対する評価	指標名	人権文化祭来場者数	成果目標の9,500人には達しなかったが、来場者数は目標の80%以上であったためB評価としたい。
	目標	9,500 人	
	実績	7,660 人	
	評価	B:概ね目標を達成できた	
③総合的な評価		<b>B</b>	活動指標だけでなく成果指標も目標には達しなかったが、記念講演会や全体の来場者数は目標の80%以上であったためB評価としたい。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	<p>平成28年12月に部落差別解消推進法が施行され、行政の責務が明確にされる中、差別落書きやインターネットへの悪質な書き込み、障がい者問題などさまざまな人権問題においても、人権侵害の事象が発生しており、なお一層の人権教育・啓発が必要であることから、今後も人権文化祭開催事業を継続すべきである。</p> <p>また、平成29年度より開始したデイサービス事業などで、地域全体に開かれたコミュニティセンターとしての役割を推進し、市民全体に開かれた人権文化祭の運営形態が求められている。</p> <p>平成29年10月に鳴門市隣保館運営審議会から答申が出されたことから、答申内容を反映できるような人権文化祭の運営形態を検討していく必要がある。</p>				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	<b>2</b>
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H30年度	<p>①少子化などによる学校の負担軽減のため、電子データの活用などの検討とともに作品数を見直しコンパクトでも魅力ある人権文化祭を行う。</p> <p>②人権福祉センター耐震改修工事により、同センターが全館使用不能になるが、代替会場として市民会館で開催し、川崎会館・青少年会館・立岩集会所とともに人権文化祭を継続開催する。</p> <p>③上記「②」の代替開催が人権文化祭の節目の年(45回目)にあたることから、これを契機に集客の利便性に優れた市中心部を会場とした人権文化祭の開催を関係団体の協力を得ながら、検討していく。</p>			
	H31年度	<p>より一層の人権意識の普及・高揚を図るとともに、来場者数を維持しつつ、人権文祭開催イベントとして同和カルタ大会に加え、来場者が体験・参加できるようなイベントを企画するなど、新たな事業を検討する。</p>			